

令和7年度 第1回 磐田市地域公共交通会議 次第

日時：令和7年6月2日（月）午前10時～
場所：ワークピア磐田2階 視聴覚室

1 開会

2 会長挨拶

3 報告事項

報告第1号 令和6年度デマンド型乗合タクシーの実績報告について

報告第2号 令和6年度磐田市自主運行バス掛塚磐田駅線の実績報告について

報告第3号 令和6年度モニタリングシートの報告について

4 協議事項

議案第1号 デマンド型乗合タクシーの運行内容の見直しについて

議案第2号 地域内フィーダー系統確保維持改善計画について

5 その他

(1) 2025 小学生バス無料デーの実施について

(2) 広域生活バスの運賃改定について

6 閉会

令和7年度 第1回 磐田市地域公共交通会議

日時：令和7年6月2日（月）午前10時～
場所：ワークピア磐田2階 視聴覚室

令和 6 年度デマンド型乗合タクシーの実績報告について

デマンド型乗合タクシーの実績について、別紙のとおり報告する。

令和6年度 デマンド型乗合タクシー実績報告について

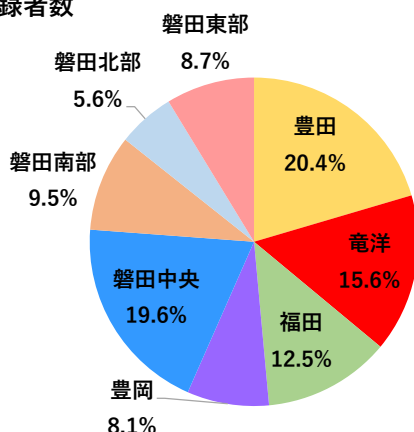
○地区別利用登録状況(令和7年3月末)

(単位:人)

地区	豊田	竜洋	福田	豊岡	磐田中央	磐田南部	磐田北部	磐田東部	合計
令和6年度	2,716	2,070	1,660	1,073	2,602	1,259	747	1,158	13,285
令和5年度	2,554	1,930	1,578	1,041	2,312	1,157	712	1,091	12,375
増減	162 (+6.34)	140 (+7.25)	82 (+5.20)	32 (+3.07)	290 (+12.54)	102 (+8.82)	35 (+4.92)	67 (+6.14)	910 (+7.35)
対象人口 (R7.3)	29,683	18,011	16,478	10,418	44,996	18,053	9,793	17,482	164,914

※磐田中央地区は、65歳以上が対象

地区別利用登録者数



○地区別利用者数

※利用者数

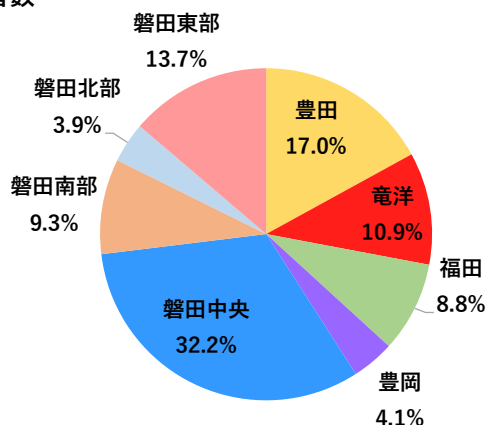
(単位:人)

地区	豊田	竜洋	福田	豊岡	磐田中央	磐田南部	磐田北部	磐田東部	合計
令和6年度	10,026	6,442	5,196	2,444	18,949	5,477	2,295	8,102	58,931
令和5年度	8,622	6,280	4,116	2,178	15,157	5,130	1,885	7,339	50,707
増減	1,404 (+16.28)	162 (+2.58)	1,080 (+26.24)	266 (+12.21)	3,792 (+25.02)	347 (+6.76)	410 (+21.75)	763 (+10.40)	8,224 (+16.22)

※実利用者数

地区	豊田	竜洋	福田	豊岡	磐田中央	磐田南部	磐田北部	磐田東部	合計
令和6年度	437	350	262	80	700	239	77	261	2,406
令和5年度	422	353	224	92	605	214	70	241	2,221
増減	15 (+3.55)	-3 (△0.85)	38 (+16.96)	-12 (△13.04)	95 (+15.70)	25 (+11.68)	7 (+10.00)	20 (+8.30)	185 (+8.33)

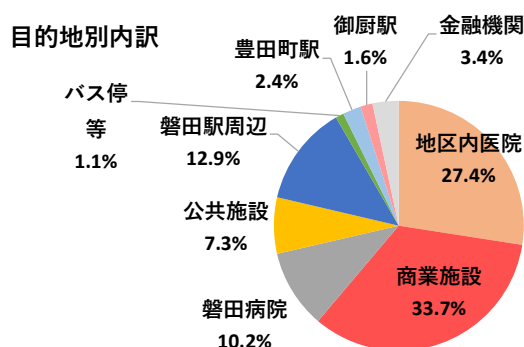
地区別利用者数



○目的地別利用状況

(単位:人)

施設	地区内医院	商業施設	磐田病院	公共施設	磐田駅周辺	バス停等	豊田町駅	御厨駅	金融機関	合計
令和6年度	16,173	19,882	6,012	4,295	7,630	623	1,407	925	1,984	58,931
令和5年度	13,620	15,686	5,671	4,284	6,722	668	1,415	928	1,713	50,707
増減 (%)	2,553 (+18.74)	4,196 (+26.75)	341 (+6.01)	11 (+0.26)	908 (+13.51)	-45 (△6.74)	-8 (△0.57)	-3 (△0.32)	271 (+15.82)	8,224 (+16.22)



○障がい者・免許証返納者の利用状況

※利用者数

(単位:人)

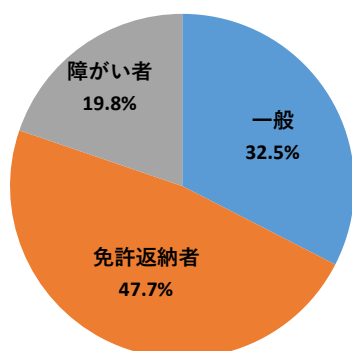
種別	一般	免許返納者	障がい者	合計
令和6年度	19,178	28,108	11,645	58,931
令和5年度	17,851	22,814	10,042	50,707
増減 (%)	1,327 (+7.43)	5,294 (+23.21)	1,603 (+15.96)	8,224 (+16.22)

※実利用者数

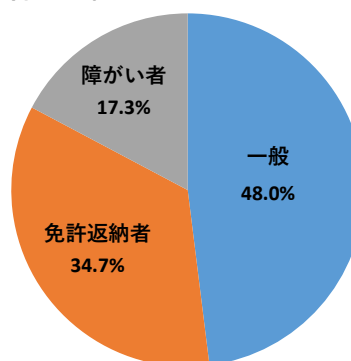
(単位:人)

種別	一般	免許返納者	障がい者	合計
令和6年度	1,770	1,280	636	2,406
令和5年度	1,644	1,162	577	2,221
増減 (%)	126 (+7.66)	118 (+10.15)	59 (+10.23)	185 (+8.33)

利用者の内訳



実利用者の内訳



○運転経歴証明書提示者（免許証返納者）の利用状況

※利用者数

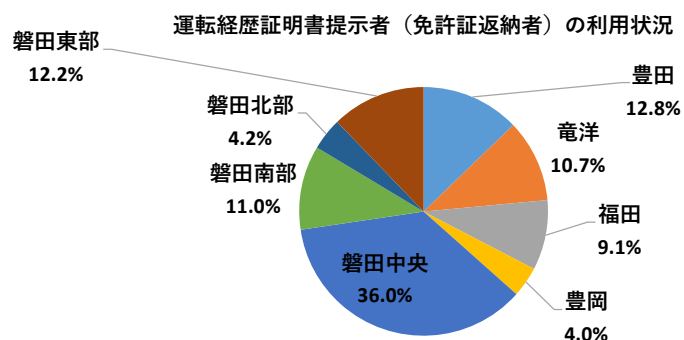
(単位:人)

地区	豊田	竜洋	福田	豊岡	磐田中央	磐田南部	磐田北部	磐田東部	合計
令和6年度	3,600	3,018	2,552	1,117	10,127	3,080	1,176	3,438	28,108
令和5年度	2,793	2,806	1,981	874	8,091	2,578	1,054	2,637	22,814
増減	807 (+28.89)	212 (+7.56)	571 (+28.82)	243 (+27.80)	2,036 (+25.16)	502 (+19.47)	122 (+11.57)	801 (+30.38)	5,294 (+23.21)

※実利用者数

(単位:人)

地区	豊田	竜洋	福田	豊岡	磐田中央	磐田南部	磐田北部	磐田東部	合計
令和6年度	228	162	123	38	426	127	35	141	1,280
令和5年度	203	178	108	38	363	110	33	129	1,162
増減	25 (+12.32)	-16 (△8.99)	15 (+13.89)	0 (+0.00)	63 (+17.36)	17 (+15.45)	2 (+6.06)	12 (+9.30)	118 (+10.15)

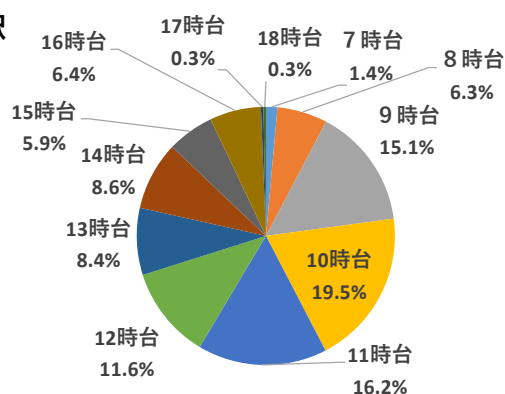


○時刻別利用状況

(単位:人)

時刻	7時台	8時台	9時台	10時台	11時台	12時台	13時台	14時台	15時台	16時台	17時台	18時台
令和6年度	853	3,699	8,908	11,506	9,531	6,823	4,942	5,070	3,449	3,777	201	172
令和5年度	730	3,907	7,535	10,169	8,313	5,581	3,830	4,784	2,535	2,906	203	214
増減	123 (+16.85)	-208 (△5.32)	1,373 (+18.22)	1,337 (+13.15)	1,218 (+14.65)	1,242 (+22.25)	1,112 (+29.03)	286 (+5.98)	914 (+36.06)	871 (+29.97)	-2 (△0.99)	-42 (△19.63)

時刻別利用内訳

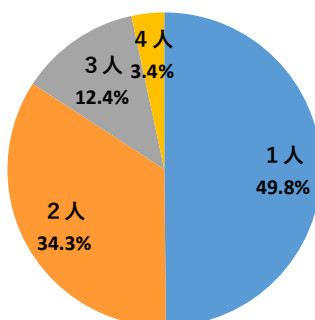


○乗合の状況

(単位：便)

乗合数	1 人	2 人	3 人	4 人	合計
令和 6 年度	17,348	11,953	4,331	1,171	34,803
令和 5 年度	16,854	10,647	3,263	693	31,457
増減	494 (+2.93)	1,306 (+12.27)	1,068 (+32.73)	478 (+68.98)	3,346 (+10.64)

乗合の状況



○土曜日の利用状況

※利用者数

(単位：人)

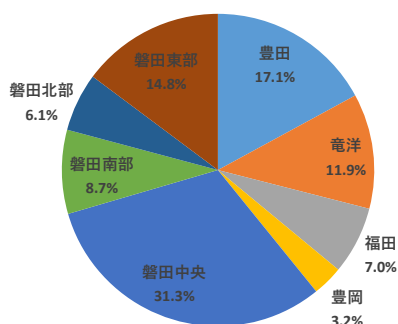
地区	豊田	竜洋	福田	豊岡	磐田中央	磐田南部	磐田北部	磐田東部	合計
令和 6 年度	1,166	812	478	216	2,136	591	413	1,010	6,822
令和 5 年度	932	488	409	236	1,672	494	345	909	5,485
増減	234 (+25.11)	324 (+66.39)	69 (+16.87)	-20 (△8.47)	464 (+27.75)	97 (+19.64)	68 (+19.71)	101 (+11.11)	1,337 (+24.38)

※実利用者数

(単位：人)

地区	豊田	竜洋	福田	豊岡	磐田中央	磐田南部	磐田北部	磐田東部	合計
令和 6 年度	136	115	60	25	265	72	25	101	799
令和 5 年度	115	99	60	21	233	68	20	92	708
増減	21 (+18.26)	16 (+16.16)	0 (+0.00)	4 (+19.05)	32 (+13.73)	4 (+5.88)	5 (+25.00)	9 (+9.78)	91 (+12.85)

土曜日の利用状況



○令和6年度WEB予約システムからの利用状況について（R7.2.10～）

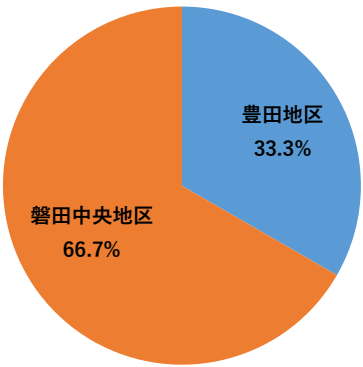
※ 利用者数 (単位:人)

地区	2月	3月	計
豊田地区	2	14	16
磐田中央地区	4	28	32
	6	42	48

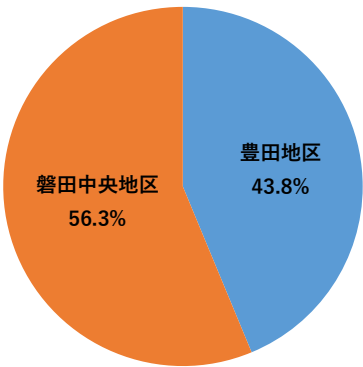
※ 実利用者数 (単位:人)

地区	2月	3月	計
豊田地区	2	5	7
磐田中央地区	3	6	9
	5	11	16

WEB予約システムの利用者数について



WEB予約システムの実利用者数について



【参考】WEB予約者の割合（3月分）

※ 利用者数 (単位:人)

地区	利用者数		WEB予約者の割合
	うち、WEB予約		
豊田地区	14	821	1.7%
磐田中央地区	28	1,647	1.7%
計	42	2,468	1.7%

※ 実利用者数 (単位:人)

地区	利用者数		WEB予約者の割合
	うち、WEB予約		
豊田地区	5	179	2.8%
磐田中央地区	6	325	1.8%
計	11	504	2.2%

デマンド型乗合タクシー利用状況（運行期間：R6.4.1～R7.3.31）

地区名	R7.3末登録数	利用者数（人）				使用台数 （台）	平均乗車 数 （人/台）	運行経費 （円）	運賃収入等※ （円）	委託料 （円）	備考
		全体	1日当り	うち障害者等の 数及び割合							
豊田地区	2,716	10,026	34.2	2,574	25.7%	5,845	1.72	15,662,603	3,307,700	12,354,903	・平均年齢76.8歳
竜洋地区	2,070	6,442	22.0	1,414	21.9%	4,213	1.53	14,371,808	2,417,400	11,954,408	・平均年齢77.5歳
福田地区	1,660	5,196	17.7	765	14.7%	3,262	1.59	10,943,856	2,960,100	7,983,756	・平均年齢80.1歳
豊岡地区	1,073	2,444	8.6	342	14.0%	1,507	1.62	5,350,928	841,800	4,509,128	・平均年齢82.3歳
磐田中央地区 （見付・中泉・今之浦地区）	2,602	18,949	64.7	2,755	14.5%	9,743	1.94	25,168,429	8,723,300	16,445,129	・平均年齢80.3歳
磐田南部地区 （天竜・長野・於保地区）	1,259	5,477	18.7	781	14.3%	3,528	1.55	11,148,368	2,081,400	9,066,968	・平均年齢78.4歳
磐田北部地区 （大藤・向笠・岩田地区）	747	2,295	7.9	470	20.5%	1,642	1.40	6,240,806	1,018,700	5,222,106	・平均年齢80.7歳
磐田東部地区 （西貝・田原・御厨・南御厨地区）	1,158	8,102	27.7	2,544	31.4%	5,063	1.60	15,372,258	2,743,100	12,629,158	・平均年齢70.9歳
合 計	13,285	58,931	201.1	11,645	19.8%	34,803	1.69	104,259,056	24,093,500	80,165,556	

※運賃収入等は、利用者負担額と国庫補助金の合計額

※運行日数は293日

目的地利用割合（地区別）（運行期間：R6.4.1～R7.3.31）

地区名	地区内 医院	地区内 商業施設	金融機関	地区内 公共施設	バス停等	磐田駅 周辺	地区外 公共施設	地区外 商業施設	磐田病院	磐田駅	豊田町駅	御厨駅
豊田地区	28.58%	39.40%	3.22%	4.72%	－	7.69%	0.08%	－	10.51%	0.94%	4.87%	－
竜洋地区	29.49%	15.85%	2.13%	9.53%	0.57%	7.31%	1.77%	－	15.65%	6.74%	10.96%	－
福田地区	34.53%	17.55%	2.66%	8.83%	0.06%	14.09%	1.77%	－	12.45%	7.18%	－	0.89%
豊岡地区	26.72%	53.40%	1.72%	1.39%	3.68%	0.94%	0.12%	－	9.70%	2.25%	0.08%	－
磐田中央地区 （見付・中泉・今之浦地区）	34.24%	37.93%	3.25%	5.76%	0.11%	4.25%	0.28%	－	8.53%	5.64%	－	－
磐田南部地区 （天竜・長野・於保地区）	12.98%	39.53%	6.85%	2.25%	0.00%	11.06%	1.28%	－	15.79%	6.41%	3.85%	－
磐田北部地区 （大藤・向笠・岩田地区）	8.58%	6.84%	0.92%	0.04%	2.83%	11.50%	4.18%	40.39%	10.68%	12.07%	－	1.96%
磐田東部地区 （西貝・田原・御厨・南御厨地区）	16.24%	27.88%	4.10%	2.42%	5.04%	20.62%	1.70%	－	7.22%	4.48%	－	10.29%

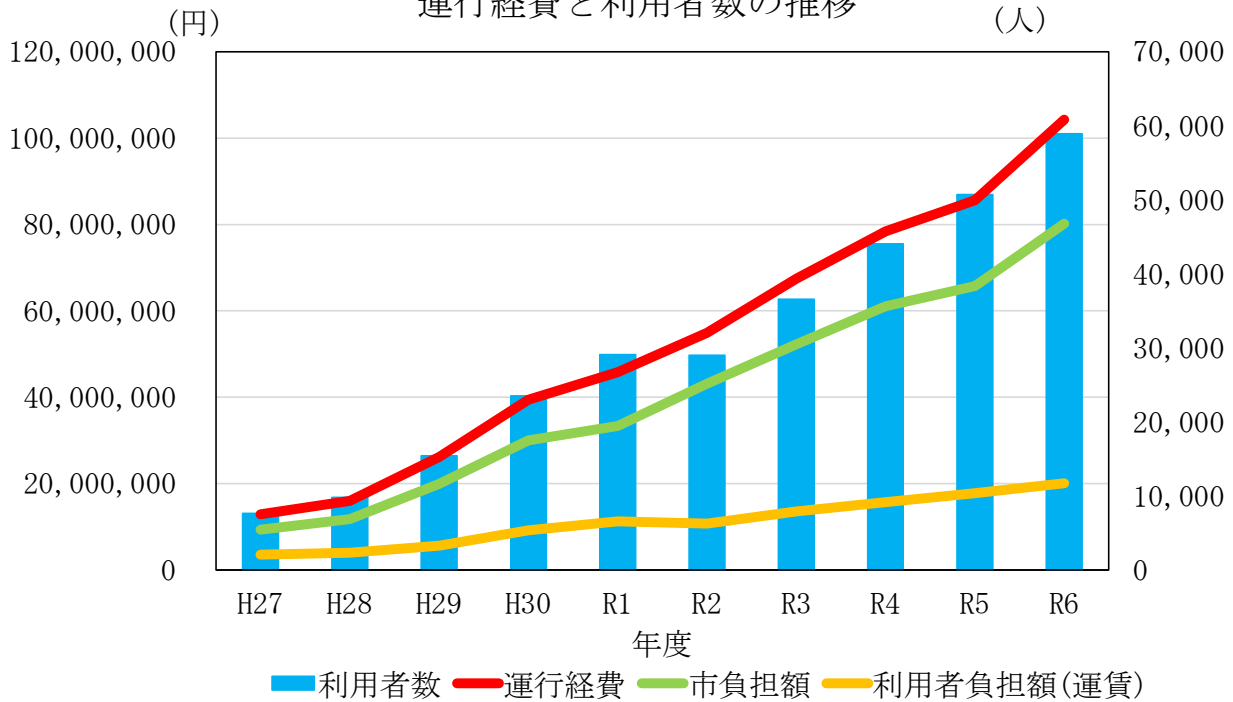
1 番利用が多い指定施設

2 番利用が多い指定施設

3 番利用が多い指定施設

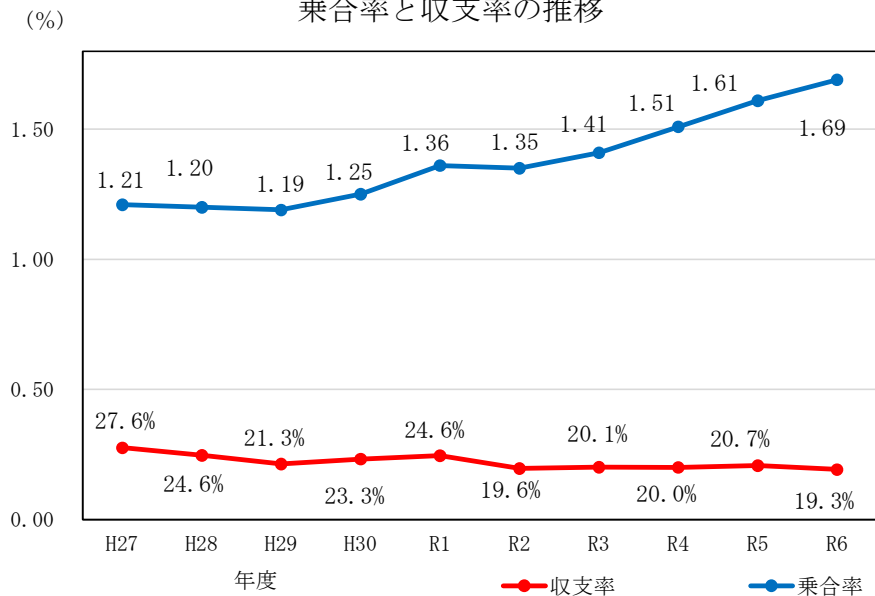
デマンド型乗合タクシー状況の推移

運行経費と利用者数の推移



年度	H27	H28	H29	H30	R1
利用者数 (人)	7,645	9,782	15,416	23,511	29,095
運行経費 (円)	12,908,722	15,966,060	26,112,860	39,396,020	45,736,210
市負担額 (円)	9,347,572	11,817,710	19,951,510	29,971,420	33,282,346
国庫補助 (円)	0	215,000	591,000	260,000	1,206,000
利用者負担額 (円)	3,561,150	3,933,350	5,570,350	9,164,600	11,247,864
収支率 (%)	27.6%	24.6%	21.3%	23.3%	24.6%
乗合率	1.21	1.20	1.19	1.25	1.36
年度	R2	R3	R4	R5	R6
利用者数 (人)	29,001	36,563	44,013	50,707	58,931
運行経費 (円)	54,885,880	67,486,520	78,398,630	85,598,540	104,259,056
市負担額 (円)	43,075,980	52,185,420	61,076,130	65,704,740	80,165,556
国庫補助 (円)	1,064,000	1,750,000	1,647,000	2,133,000	4,012,000
利用者負担額 (円)	10,745,900	13,551,100	15,675,500	17,760,800	20,081,500
収支率 (%)	19.6%	20.1%	20.0%	20.7%	19.3%
乗合率	1.35	1.41	1.51	1.61	1.69

乗合率と収支率の推移



令和6年度磐田市自主運行バス掛塚磐田線の実績報告について

磐田市自主運行バス掛塚磐田線の実績について、別紙のとおり報告する。

令和6年度 磐田市自主運行バス「掛塚磐田駅線」の実績報告について

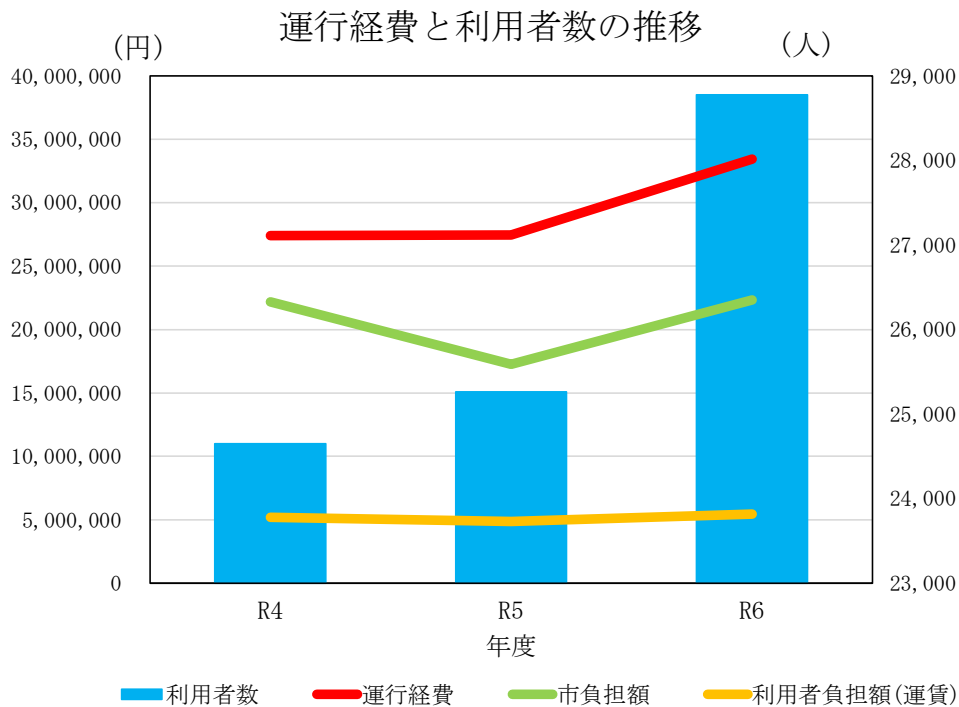
○系統別利用者数

番号	系統	経路	運行便数 (往復)	利用者数 (人)	運賃収入 (円)
1	とつか系統	蟹町→とつか・豊田町駅→磐田駅	5.0	13,537	5,466,173
2	千手堂系統	蟹町→千手堂→磐田駅	4.5	9,755	
3	北高系統	蟹町→千手堂・磐田駅→磐田北高	0.5	5,484	
合計				28,776	

○運賃収入の状況

(単位:円)

	現金	PayPay	回数券	定期券	合計
令和6年度	2,484,263	487,580	736,800	1,757,530	5,466,173
令和5年度	2,319,566	432,155	760,900	1,362,870	4,875,491
増減 (%)	164,697 (+7.10)	55,425 (+12.83)	-24,100 (△3.17)	394,660 (+28.96)	590,682 (+12.12)
令和4年度	2,297,703	330,032	736,100	1,849,730	5,213,565



年度	R4	R5	R6
利用者数 (人)	24,652	25,263	28,776
運行経費 (円)	27,403,640	27,447,024	33,421,484
市負担額 (円)	22,190,075	17,269,533	22,342,311
県補助 (円)	0	5,302,000	5,613,000
利用者負担額 (円)	5,213,565	4,875,491	5,466,173

令和6年度モニタリングシートの報告について

磐田市地域公共交通計画におけるモニタリングシートについて、別紙のとおり報告する。

～令和6年度モニタリングシートとは～

本市の『磐田市地域公共交通計画（令和5年3月）』では、その評価を磐田市地域公共交通会議ですることになっているため、進捗についてモニタリングシートを用いて報告するものです。

■モニタリングシート

令和7年度 磐田市地域公共交通計画モニタリングシート1【事業実施状況】

事業名		R 6 実施 状況	令和6年度の 実施状況の内容	R 7 実施 予定	令和7年度の 事業実施の方針
基本的な方針 暮らしの安心と人が集まる磐田市の未来を創る公共交通					
目標1 都市間や拠点間を結ぶ公共交通の確保・維持					
①	鉄道運行の維持・支援	◎	天浜線について沿線の市町と連携し、経営支援及び利用促進を行った。	◎	継続して鉄道沿線の市町と連携し、経営支援及び利用促進を実施する。
②	バス路線の維持・支援	◎	欠損額の補助により、バス事業者の負担軽減を図り、路線の維持に努めた。	◎	今後も継続して支援する。
③	バス路線退出の代替交通検討	◎	バス路線退出の申出はなかった。	◎	申出があれば対応していく。
④	新規路線の検討	◎	ニーズ調査をし、地域住民などとの意見交換を行った。	◎	ニーズ調査の結果を基に、運行形態の検討を行う。
目標2 拠点とその周辺地域を結ぶ地域交通の確保・維持					
①	デマンド型乗合タクシーの維持	◎	現状の運行を維持しつつ、登録施設を随時更新した。	◎	必要に応じて検討部会を開催し、随時評価や見直しをする。
②	ボランティア運送の支援	◎	モデル地区で開始されたボランティア運送への支援を行った。	◎	支援を継続すると共に、情報発信などを通じて他の地域への展開を検討する。
③	地域輸送資源の活用調査	◎	通学バスの活用について調査した。	◎	継続して、通学バスの活用について調査するとともに、企業や団体が保有するバス等について実態調査の方法を検討する。
目標3 公共交通の利便性向上と利用促進					
①	運行内容の見直し	◎	公共交通会議で各路線の必要性について審議した。	◎	必要に応じて検討部会を開催し、協議を行う。
②	バス停等の環境整備	◎	磐田市香りの博物館などでデマンド型乗合タクシーの看板を更新した。	○	デマンド型乗合タクシーの看板が未設置の乗降場所への看板設置や老朽化した看板更新を行う。
③	利用方法等の情報発信	◎	出前講座での啓発、チラシを配布したり、地域包括支援センター等での制度紹介を行った。	○	継続して、出前講座での啓発やチラシの配布に加え地域の代表者等と情報交換をする。
④	運賃の割引等	◎	デマンド型乗合タクシーについて、障害者割引及び運転免許証自主返納者割引を実施した。	◎	今後も継続して実施する。
⑤	先端技術の活用	◎	支援により路線バスにキャッシュレス決済が導入された。 デマンド型乗合タクシーの一部路線にWEB 予約システムを導入した。	◎	市内事業者によるグリーンスローモビリティの運行を支援する。 市内事業者などとの意見交換や情報交換を継続して実施する。 デマンド型乗合タクシーのWEB 予約システムの拡充を検討する。

記載要領

- 1 実施状況は、事業を実施したは◎、実施予定は○、未実施は△を記入する。
- 2 実施状況の内容は、実施した事業の内容、実施予定の内容、未実施の理由等を記入する。
- 3 事業実施の方針は、実施状況を踏まえた今後の事業実施の方針を記入する。

令和7年度 磐田市地域公共交通計画モニタリングシート2【路線運行状況】

路線名	利用者数 (人/年)	利用者 数 (人/日)	経常費用 (円/年)	経常収入 (円/年)	収支 率 (%)	経常欠損額 (円/年)	公費負担額 (円/年) [国・県] [市]	今後の 路線方針
バス路線 令和6年度								
1 磐田市 立病院 福田線	221,583	607	85,156,060	43,629,372	51.2	41,526,688	43,586,000 [14,618,000] [28,968,000]	継続運行
2 中ノ町 磐田線	305,921	838	93,218,302	58,252,307	62.5	34,965,995	33,151,000 [27,318,000] [5,833,000]	継続運行
3 磐田 天竜線	325,718	892	181,847,433	90,096,935	49.5	91,750,498	87,030,400 [44,398,400] [42,632,000]	継続運行
4 掛塚さ なる台 線	64,050	175	24,954,064	14,250,158	57.1	10,703,906	9,395,400 [6,994,400] [2,401,000]	継続運行
5 城之崎 線	25,647	70	7,530,063	4,880,987	64.8	2,649,076	2,962,000 [0] [2,962,000]	継続運行
6 磐田線	35,738	149	23,262,886	10,460,893	45.0	12,801,993	5,695,000 [1,936,000] [3,759,000]	継続運行
7 掛塚磐 田駅線	28,776	97	33,421,484	5,466,173	16.4	27,955,311	27,955,311 [5,613,000] [22,342,311]	継続運行
合 計	1,007,433	2,828	449,390,292	227,036,825	50.5	222,353,467	209,775,111 [100,877,800] [108,897,311]	

※磐田線の公費負担額は、磐田市内のみで袋井市、森町の運行区域分を除く。

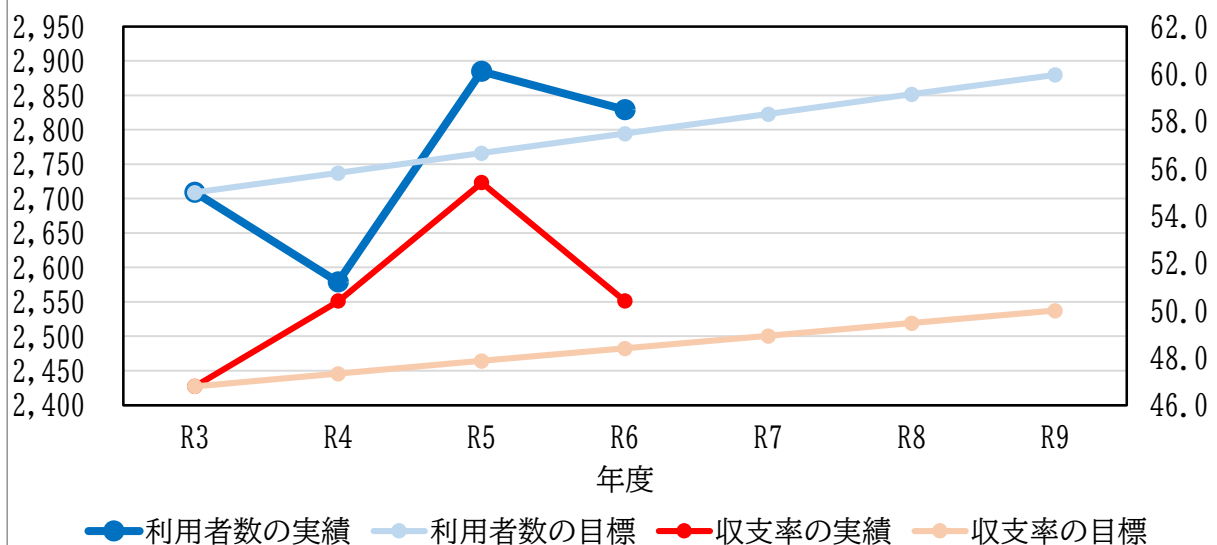
記載要領

- 1 利用者数は、年間利用者数と年間利用者数を年間運行日数で除した値を記入する。
- 2 経常費用は、年間の運行にかかる経費の合計を記入する。
- 3 経常収入は、年間の運行にかかる収入の合計を記入する。
- 4 収支率は、経常収入を経常費用で除した率を記入する。
- 5 経常欠損額は、経常費用から経常収入を引いた値を記入する。
- 6 公費負担額は、当該路線の国・県・市の補助額等の合計を記入する。
- 7 今後の路線方針は、運行見直し内容等を記入する。

利用者数(人/日)

利用者数と収支率の推移

収支率(%)



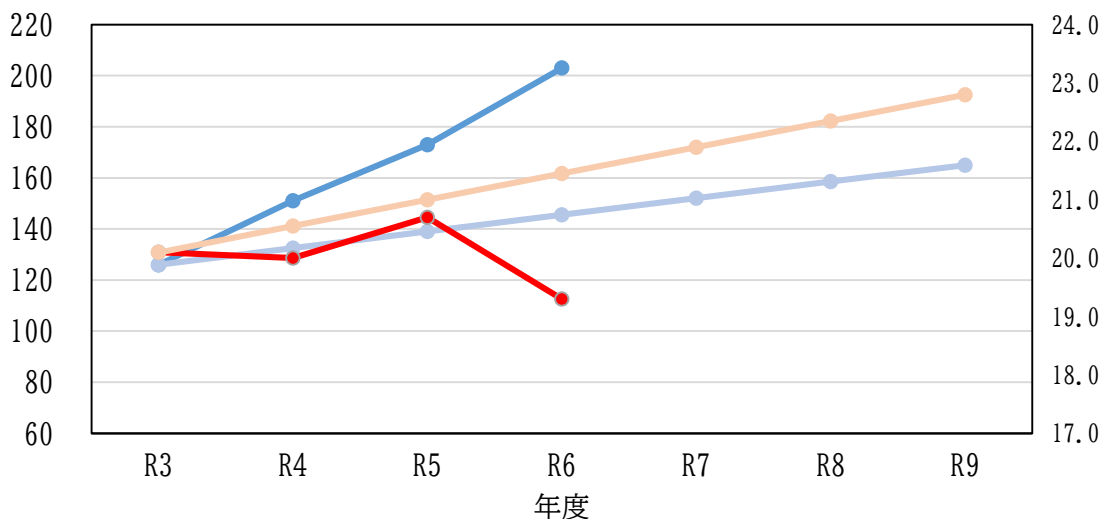
路線名	利用者数 (人/年)	利用者数 (人/日)	経常費用 (円/年)	経常収入 (円/年)	収支 率 (%)	経常欠損額 (円/年)	公費負担額 (円/年) [国・県] [市]	今後の 路線方針
デマンド型乗合タクシー 令和6年度								
1 磐田 北部線	2,295	6	6,240,806	1,018,700	16.3	5,222,106	5,222,106 [1,001,000] [4,221,106]	継続運行
2 磐田 東部線	8,102	28	15,372,258	2,743,100	17.8	12,629,158	12,629,158 [2,786,000] [9,843,158]	継続運行
3 磐田 南部線	5,477	19	11,148,368	2,081,400	18.7	9,066,968	9,066,968 [2,004,000] [7,062,968]	継続運行
4 磐田 中央線	18,949	65	25,168,429	5,637,300	22.4	19,531,129	19,531,129 [3,086,000] [16,445,129]	継続運行
5 豊岡線	2,444	9	5,350,928	841,800	15.7	4,509,128	4,509,128 [928,000] [3,581,128]	継続運行
6 福田線	5,196	20	10,943,856	2,034,100	18.6	8,909,756	8,909,756 [926,000] [7,983,756]	継続運行
7 豊田線	10,026	34	15,662,603	3,307,700	21.1	12,354,903	12,354,903 [2,554,000] [9,800,903]	継続運行
8 竜洋線	6,442	22	14,371,808	2,417,400	16.8	11,954,408	11,954,408 [2,608,000] [9,346,408]	継続運行
合 計	58,942	203	104,259,056	20,081,500	19.3	84,177,556	84,177,556 [15,893,000] [68,284,556]	

記載要領

- 1 利用者数は、年間利用者数と年間利用者数を年間運行日数で除した値を記入する。
- 2 経常費用は、年間の運行にかかる経費の合計を記入する。
- 3 経常収入は、年間の運行にかかる収入の合計を記入する。
- 4 収支率は、経常収入を経常費用で除した率を記入する。
- 5 経常欠損額は、経常費用から経常収入を引いた値を記入する。
- 6 公費負担額は、当該路線の国・県・市の補助額等の合計を記入する。
- 7 今後の路線方針は、運行見直し内容等を記入する。

利用者数と収支率の推移

利用者数(人/年)



●利用者数の実績 ●利用者数の目標 ●収支率の実績 ●収支率の目標

デマンド型乗合タクシーの運行内容の変更について

デマンド型乗合タクシーの運行内容を下記のとおり変更するものとする。

記

1 地区内施設

- (1)磐田東部地区の指定施設「三上内科小児科医院」を「みかみクリニック」に改める。
- (2)磐田南部地区の指定施設「おおわら内科」を削除する。
- (3)磐田東部地区に指定施設「みくりやこどもココカラクリニック」を追加する。

2 地区内施設の運賃

利用者宅区分	⇔	施設名	運賃（片道）
磐田東部地区	⇔	みかみクリニック	400 円/人
磐田東部地区	⇔	みくりやこどもココカラクリニック	400 円/人

3 実施時期

令和 7 年 7 月 1 日から

磐田市デマンド型乗合タクシー指定施設位置図

施設名 みかみクリニック（旧三上内科小児科医院）

住 所 磐田市鎌田 865-2

理 由 三上内科小児科医院からみかみクリニックに名称変更

【位置図】



【写真】



施設名 おおわら内科
住 所 磐田市大原 1411
理 由 閉院のため

【位置図】

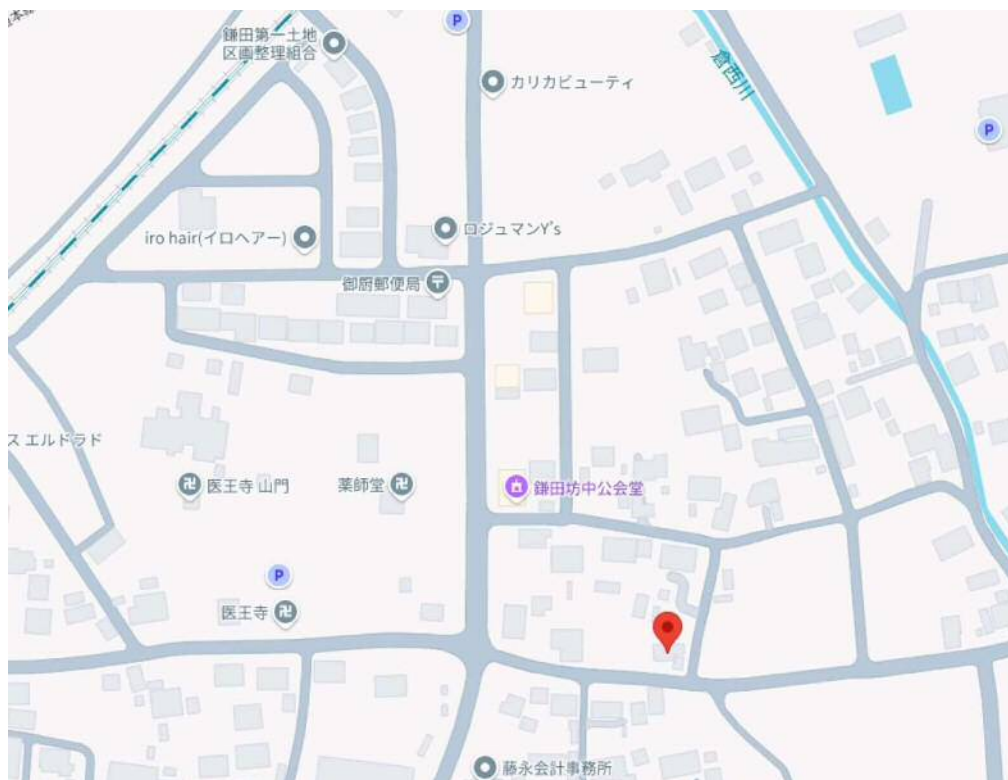


【写真】



理由 新規開院のため

【位置図】



地域内フィーダー系統確保維持改善計画について

磐田市地域内フィーダー系統確保維持改善計画について、別紙のとおり策定するものとする。

～磐田市地域内フィーダー系統確保維持改善計画とは～

この計画は、デマンド型乗合タクシーのうち福田線と磐田中央線が国の補助制度の対象になっているため、本会議で補助申請に必要な計画を策定するものです。

令和7年 月 日

(名称) 磐田市地域公共交通会議

1. 地域公共交通確保維持事業に係る目的・必要性

磐田市においては、主に通勤通学時の大量輸送手段として、幹線交通である路線バスが近隣の浜松市・袋井市・森町等と本市を結ぶ広域路線6路線で運行されており、磐田駅を中心に放射状に路線網が形成されている。また、磐田市への訪問者や高齢者等の日常生活の足となっている一般タクシーにより成り立っている。

自主運行バスの代替手段として運行しているデマンド型乗合タクシーは、バス路線など既存の公共交通への乗り継ぎを図りつつ、通院や買い物など日常生活に必要な移動手段としての役割を果たしている。利用者数は増加傾向にあり、車を運転できない高齢者等の利用割合は高く、利用者からは一定の評価を得ている。

このため、地域公共交通確保維持改善事業により、デマンド型乗合タクシー「福田線」及び「磐田中央線」を確保・維持することで、住民の生活交通手段を存続させていくことが必要である。

2. 地域公共交通確保維持事業の定量的な目標・効果

(1) 事業の目標

(福田線)

指標	現状※1		目標値 (R8) ※2
一日当たりの利用者数	16.2 人	→	17.8 人
交通結節点 (主要バス停、JR 磐田駅・御厨駅) 利用者数	390 人	→	430 人

(磐田中央線)

指標	現状※1		目標値 (R8) ※2
一日当たりの利用者数	58 人	→	63.9 人
交通結節点 (主要バス停、JR 磐田駅) 利用者数	908 人	→	1,001 人

※1 令和5年10月～令和6年9月の数値

※2 目標値の期間は令和7年10月～令和8年9月

(2) 事業の効果

地域内フィーダー系統を確保・維持することにより、民間路線バスが利用できない区域を解消するとともに、高齢者など交通弱者の日常生活に必要な交通手段が確保される。

運行目的地については、日常生活に最低限必要な施設に絞ることにより他の公共交通との整合を図るほか、民間路線バス (遠州鉄道「磐田市立病院福田線」) の主要バス停や JR 磐田駅などの交通結節点と結び、これらのフィーダーとしての役割を果たす。

3. 2. の目標を達成するために行う事業及びその実施主体

デマンド型乗合タクシーの運行内容の周知、啓発 (磐田市、事業者)

4. 地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する運行系統の概要及び 運送予定者
別表1のとおり
5. 地域公共交通確保維持事業に要する費用の総額、負担者及びその負担額
6. 2. の目標・効果の評価手法及び測定方法
目標値の達成
7. 別表1の補助対象事業の基準ホただし書に基づき、協議会が平日1日当たりの 運行回数が3回以上で足りると認めた系統の概要 <u>【地域間幹線系統のみ】</u>
※該当なし
8. 別表1の補助対象事業の基準ニに基づき、協議会が「広域行政圏の中心市町村 に準ずる生活基盤が整備されている」と認めた市町村の一覧 <u>【地域間幹線系統のみ】</u>
※該当なし
9. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期 及びその他特記事項 <u>【地域間幹線系統のみ】</u>
※該当なし
10. 地域公共交通確保維持改善事業を行う地域の概要 <u>【地域内フィーダー系統のみ】</u>
表5のとおり
11. 車両の取得に係る目的・必要性 <u>【車両減価償却費等国庫補助金・公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けよ うとする場合のみ】</u>
※該当なし
12. 車両の取得に係る定量的な目標・効果 <u>【車両減価償却費等国庫補助金・公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けよ うとする場合のみ】</u>
(1) 事業の目標
※該当なし
(2) 事業の効果
※該当なし
13 車両の取得計画の概要及び車両の取得を行う事業者又は地方公共団体、要する費 用の総額、負担者とその負担額 <u>【車両減価償却費等国庫補助金・公有民営方式 車両購入費国庫補助金を受けようとする場合のみ】</u>
※該当なし
14. 老朽更新の代替による費用の削減等による地域公共交通確保維持事業における 収支の改善に係る計画（車両の代替による費用削減等の内容、代替車両を活用 した利用促進策） <u>【公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けようとする場合のみ】</u>
※該当なし
15. 貨客混載の導入に係る目的・必要性 <u>【貨客混載導入経費国庫補助金を受けようとする場合のみ】</u>
※該当なし

16. 貨客混載の導入に係る定量的な目標・効果

【貨客混載導入経費国庫補助金を受けようとする場合のみ】

(1) 事業の目標

※該当なし

(2) 事業の効果

※該当なし

17. 貨客混載の導入に係る計画の概要、要する費用の総額、内訳、負担者及び負担額 **【貨客混載導入経費国庫補助金を受けようとする場合のみ】**

※該当なし

18. 協議会の開催状況と主な議論

- ・平成28年5月26日 本計画の協議
- ・平成29年1月18日 福田線、磐田中央線運行内容の見直し
 - ・運行日、運行時刻の追加
 - ・指定施設の追加 など
- ・平成29年5月31日 磐田中央線運行内容見直しの提案
 - ・運行日、運行時刻の追加
 - ・指定施設の追加 など
- 本計画の協議
- ・平成29年12月20日 磐田中央線ほか運行内容の見直し
 - ・運行日、運行時刻の追加
 - ・指定施設の追加 など
- ・平成30年5月31日 磐田中央線運行内容の見直し
 - ・指定施設の追加
- 本計画の協議
- ・平成30年12月25日 8路線運行内容の見直し
 - ・指定施設の追加
 - ・車両配置数の変更
- ・令和元年5月31日 磐田中央線運行内容の見直し
 - ・指定施設の追加
- 本計画の協議
- ・令和元年12月25日 磐田中央線ほか運行内容の見直し
 - ・運行日、運行時刻の追加
 - ・指定施設の追加 など
- ・令和2年5月30日 磐田中央線ほか運行内容の見直し
 - ・指定施設の削除、追加
- 本計画の協議
- ・令和2年12月25日 磐田中央線ほか運行内容の見直し
 - ・運行時刻の追加
 - ・指定施設の追加 など
- ・令和3年6月2日 磐田中央線ほか運行内容の見直し
 - ・指定施設の追加
- 本計画の協議
- ・令和3年12月15日 磐田中央線ほか運行内容の見直し
 - ・指定施設の削除、追加
- ・令和4年4月27日 磐田中央線ほか運行内容の見直し
 - ・指定施設の追加
- ・令和4年6月1日 磐田中央線ほか運行内容の見直し
 - ・指定施設の削除、追加
- 本計画の協議
- ・令和4年10月17日 磐田中央線ほか運行内容の見直し
 - ・指定施設の追加、所在地変更、名称変更
- ・令和4年12月27日 磐田中央線ほか運行内容の見直し
 - ・指定施設の削除、所在地変更
- ・令和5年5月30日 磐田中央線ほか運行内容の見直し
 - ・指定施設の削除、追加
- 本計画の協議

・ 令和 5 年 7 月 13 日	磐田中央線運行内容の見直し ・ 指定施設の追加
・ 令和 6 年 5 月 31 日	磐田中央線ほか運行内容の見直し ・ 指定施設の追加、運行時刻の追加 本計画の協議
・ 令和 7 年 1 月 17 日	豊田線ほか運行内容の見直し ・ 指定施設の名称変更、所在地変更
・ 令和 7 年 6 月 2 日	磐田東部線ほか運行内容の見直し ・ 指定施設の名称変更、削除 本計画の協議
19. 利用者等の意見の反映状況	
・ 自治会、老人クラブ、民生委員、福祉団体関係者、運行事業者及び市職員で組織する「住民周知・利用促進検討会」の開催 ・ 利用登録者アンケート調査の実施 ・ 車内アンケート調査の実施 ・ 交通安全協会磐田地区支部と連携 ・ 自治会、老人クラブ、高齢者サロン等への説明会開催	

【本計画に関する担当者・連絡先】

(住 所) 静岡県国府台 3 番地 1
 (所 属) 自治市民部自治デザイン課
 (氏 名) 倉谷 隼基
 (電 話) 0538 - 37 - 4751
 (e-mail) chiiki-ohen@city.iwata.lg.jp

注意： 本様式はあくまで参考であり、補助要綱の要件を満たすものであれば、この様式によらなくても差し支えありません。

実際の計画作成に当たっては補助要綱等を踏まえて作成をお願いいたします。

各記載項目について、地域公共交通利便増進実施計画及び地域旅客運送サービス継続実施計画を作成している場合には、当該計画から該当部分を転記したり、別添〇〇計画△節のとおり、等として引用したりすることも可能です。(ただし、上記 2.・3. については、地域公共交通利便増進実施計画及び地域旅客運送サービス継続実施計画に定める目標、当該目標を達成するために行う事業及びその実施主体に関する事項との整合性を図るようにして下さい。また、地域公共交通計画全体として、協議会における協議が整った上で提出される必要があります)。

※該当のない項目は削除せず、「該当なし」と記載して下さい。

表1 地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する運行系統の概要及び運送予定者（地域内フィーダー系統）

令和7年度

市区町村名	運送予定者名	運行系統名 (申請番号)	運行系統			系統 キロ程	計画 運行 日数	計画 運行 回数	利 便 増 進 特 例 措 置	地域内フィーダー系統の基準適合 (別表7及び別表9)			
			起点	経由地	終点					運行態様の別	基準ハで 該当する 要件	補助対象地域間幹 線系統等と接続の 確保	基準ホで該 当する要件 (別表7のみ)
磐田市	遠鉄タクシー株式会社	(1) デマンド型乗合タク シー 「福田線」		福田地区、磐田駅 周辺、御厨駅及び 磐田市立総合病院 等		往 km 復 km	293日	2344回		区域	①	地区間幹線系統で ある遠州鉄道「磐田 市立病院福田線」 の「福田車庫」・「大 原団地」にて接続	③
	遠鉄タクシー株式会社	(2) デマンド型乗合タク シー 「磐田中央線」		磐田中央地区(見 付・中泉・今之浦)、 磐田市立総合病院 等		往 km 復 km	293日	7911回		区域	①	地区間幹線系統で ある遠州鉄道「磐田 市立病院福田線」 の「美登里町上」に て接続	③

(注)

1. 区域運行及び乗用タクシーによる運行の場合は、運行系統の「経由地」に営業区域を記載することとし、「起点」、「終点」及び「系統キロ程」について記載を要しない。
2. 「系統キロ程」については、小数点第1位(第2位以下切り捨て)まで記載すること。なお、循環系統の場合には、往又は復のどちらかの欄にキロ程を記載し、もう片方の欄に「循環」と記載すること。
3. 「利便増進特例措置」については、地域公共交通利便増進計画の認定を受け、地域内フィーダー系統に係る特例措置の適用(別表9)を受けて補助対象となる場合のみ「○」を記載すること。
4. 「運行態様の別」については、路線定期運行、路線不定期運行、区域運行、乗用タクシーによる運行の別を記載すること。
5. 「補助対象地域間幹線系統等と接続の確保」については、地域内フィーダー系統が接続する補助対象地域間幹線系統又は地域間交通ネットワークとどのように接続を確保するかについて記載すること。
6. 乗用タクシーによる運行の場合は、「運行系統名」「利便増進特例措置」について記載を要しない。
7. 本表に記載する運行予定系統を示した地図及び運行ダイヤを添付すること。乗用タクシーによる運行の場合は、営業区域を示した地図を添付すること。

表5 地域公共交通確保維持改善事業を行う地域の概要

市区町村名	磐田市
-------	-----

(単位:人)

	人 口
人口集中地区以外	92,557
交通不便地域等	

交通不便地域等の内訳

人 口	対象地区	根拠法

地域公共交通計画、地域公共交通利便増進実施計画、地域旅客運送サービス継続実施計画の策定年月日及び
特例適用開始年度

計画名	策定年月日	特例適用開始年度
磐田市地域公共交通計画	令和5年3月24日	

(1)記載要領

1. 人口は最新の国勢調査結果を基に記載すること。ただし、地方運輸局長等が指定する交通不便地域の場合は、申請する年度の前年度の3月末現在の住民基本台帳を基に記載すること。
2. 「人口集中地区以外」の欄は、国勢調査結果により設定された人口集中地区に該当しない地区の人口を記載すること。
3. 「交通不便地域等」の欄は、地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱（以下、「交付要綱」という。）の別表7（ハ②（1））に記載のある過疎地域の人口、交付要綱別表7（ハ②（2）（実施要領の2.（1）①））に基づき地方運輸局長等が指定する交通不便地域の人口及び交付要綱別表7リに基づき地方運輸局長等が認める地域の合計（重複する場合を除く）を記載すること。
4. 「対象地区」の欄には、当該市町村の一部が交付要綱別表7（ハ②（1））に掲げる法律（根拠法）に基づき地域指定されている場合に、根拠法ごとに当該区域の旧市町村名等を記載すること。また、地方運輸局長等が指定する交通不便地域等が存在する場合には、該当する区域名を記載すること。
5. 「根拠法」の欄は、交通不便地域を地方運輸局長等が指定した場合は、「局長指定」と記載すること。また、乗用タクシー以外での輸送が著しく困難であるものとして地方運輸局長等が認めた場合は、「局長指定（乗用）」と記載すること。
6. 「特例適用開始年度」の欄は、地域公共交通利便増進実施計画又は地域旅客運送サービス継続実施計画を策定し、利便増進特例又は運送継続特例を適用する場合に記載すること。

(2)添付書類

1. 「人口集中地区以外の地区」及び「交通不便地域等」の区分が分かる地図を添付すること。（ただし、全域が交通不便地域等となる場合には省略可）

磐田市地域内フィーダー系統確保維持改善計画の策定について

1 要旨

デマンド型乗合タクシー福田線及び磐田中央線の運行は、国の補助制度の対象です。この補助制度の交付要件を満たすため、地域公共交通会議での合意が必要とされる「地域内フィーダー系統確保維持改善計画」を策定するものです。

2 交付要件（主な項目）

- ① 幹線バス系統を補完するものであること
- ② 幹線バス系統等へのアクセス機能を有すること
- ③ 新たに運行するものであること
- ④ 地域公共交通会議による議論を経た計画に基づき実施されるものであること

※デマンド型乗合タクシー（福田線及び磐田中央線）は、地域間交通の役割を担う遠州鉄道の主要バス停やＪＲ磐田駅等を運行目的地とすることにより、幹線バス系統等のフィーダー＝枝葉としての役割を果たしています。

3 補助申請対象期間

令和 8 年度（令和 7 年 10 月～令和 8 年 9 月）、令和 9、10 年度の 3 か年分

4 対象となる運行系統名

- ① デマンド型乗合タクシー福田線
- ② デマンド型乗合タクシー磐田中央線

5 事業の目標、効果

○目標（令和 8 年度）

福 田 線：一日当たりの利用者数 17.8 人（※ $16.2 \text{ 人} \times 1.05 \times 1.05 \div 17.86 \text{ 人}$ ）
 交通結節点利用者数 430 人（※ $390 \text{ 人} \times 1.05 \times 1.05 \div 429.97 \text{ 人}$ ）
 磐田中央線：一日当たりの利用者数 63.9 人（※ $58 \text{ 人} \times 1.05 \times 1.05 \div 63.95 \text{ 人}$ ）
 交通結節点利用者数 1,001 人（※ $908 \text{ 人} \times 1.05 \times 1.05 \div 1,001.07 \text{ 人}$ ）

※ 目標値は、現状実績値に目標伸び率を乗じて設定しています。

○効果 地域内フィーダー系統を確保・維持するとともに、民間路線バスが利用できない区域を解消し、高齢者など交通弱者の日常生活に必要な交通手段が確保されます。

目標設定参考表

1 現状実績値（福田線）

年度	利用者数/日 (前年比)	交通結節点 利用者数	運行内容の主な変更
平成 25 年度 (H24. 10～H25. 9)	3. 4 人 (-)	77 人	H24. 10 運行開始
平成 26 年度 (H25. 10～H26. 9)	4. 1 人 (1. 20)	89 人	H25. 10 総合病院追加
平成 27 年度 (H26. 10～H27. 9)	5. 8 人 (1. 41)	105 人	H27. 4 運賃減額 地区内 500 円→400 円
平成 28 年度 (H27. 10～H28. 9)	5. 7 人 (0. 98)	132 人	
平成 29 年度 (H28. 10～H29. 9)	5. 4 人 (0. 94)	248 人	H29. 4 土曜開始、昼便追加
平成 30 年度 (H29. 10～H30. 9)	6. 7 人 (1. 24)	213 人	H30. 4 運賃減額 総合病院 1, 500 円→1, 000 円
令和元年度 (H30. 10～R01. 9)	8. 1 人 (1. 20)	226 人	
令和 2 年度 (R01. 10～R02. 9)	7. 3 人 (0. 90)	246 人	R2. 4 運転経歴証明書提示者（65 歳以上）の 運賃半額の正式導入、御厨駅追加
令和 3 年度 (R02. 10～R03. 9)	9. 2 人 (1. 26)	158 人	
令和 4 年度 (R03. 10～R04. 9)	9. 4 人 (1. 02)	289 人	
令和 5 年度 (R04. 10～R05. 9)	13. 1 人 (1. 39)	312 人	
令和 6 年度 (R05. 10～R06. 9)	<u>16. 2 人</u> (1. 24)	<u>390 人</u>	

2 現状実績値（磐田中央線）

年度	利用者数/日 (前年比)	交通結節点 利用者数	運行内容の主な変更
平成 28 年度 (H28. 01～H28. 9)	6. 2 人 (-)	153 人	H28. 1 運行開始
平成 29 年度 (H28. 10～H29. 9)	7. 7 人 (1. 24)	253 人	H29. 4 土曜開始、昼便追加
平成 30 年度 (H29. 10～H30. 9)	14. 8 人 (1. 92)	383 人	H30. 4 運賃減額 総合病院 1, 500 円→1, 000 円 利用対象年齢 75 歳以上→65 歳以上
令和元年度 (H30. 10～R01. 9)	25. 0 人 (1. 69)	1, 003 人	
令和 2 年度 (R01. 10～R02. 9)	27. 6 人 (1. 10)	785 人	R2. 4 運転経歴証明書提示者（65 歳以上）の 運賃半額の正式導入
令和 3 年度 (R02. 10～R03. 9)	33. 7 人 (1. 22)	475 人	
令和 4 年度 (R03. 10～R04. 9)	37. 6 人 (1. 11)	555 人	
令和 5 年度 (R04. 10～R05. 9)	47. 1 人 (1. 25)	699 人	
令和 6 年度 (R05. 10～R06. 9)	<u>58. 0 人</u> (1. 23)	<u>908 人</u>	

3 目標伸び率

磐田市公共交通計画にて伸び率の目標を前年比 1. 05と定めており、目標の達成のため、磐田駅等の交通結節点における利用促進を図り、利用者を獲得していきます。

バスに乗って、出かけよう。



Happy Ride in Shizuoka Project

～2025小学生バス無料デーの実施～

ハッピーライドin静岡プロジェクト実行委員会
(事務局：静岡県バス協会、県地域交通課)

背景と目的、目指す姿

背景

- ・少子高齢化、人口減少、モータリゼーションの普及による長期的な乗合バス利用者の減少
- ・バスのドライバーの高齢化による運転手不足への危機感



目的

- ・小学生を中心とした地域住民のバス利用の促進
- ・地域の移動手段である路線バスを将来に渡り維持するため、社会全体で「乗って残す」意識を啓発
- ・皆でバスに乗り合うことによる環境負荷の低減



目指す姿

- ・マイカーから地域公共交通への転換（モビリティマネジメントの推進）
- ・バスが楽しい、（無料デーでなくても）バスに乗りたい小学生の増加
- ・子どもをバスに寄せたいと思う保護者の増加

バス利用頻度の増加



2024実施結果

概要

小学生のバス利用を促進し、バス利用者の増加につなげるため、
県内全ての小学生を対象にバス無料デーを実施した。
（小学生を対象とした全県規模の実施は全国初）

項目	内容
対象者	静岡県内の学校に通う小学生 524校 約173,000名 （国公立・私立小学校、特別支援学校、外国人学校の全児童）
実施日	令和6年12月7日（土）～8日（日）2日間
対象のバス	静岡県内を運行する路線バス・コミュニティバス （土日運休路線、高速道路走行路線等一部対象外の路線・区間あり）
主催	ハッピーライドin静岡プロジェクト実行委員会（令和6年4月24日設置） 構成員：国、県、市町、（一社）静岡県バス協会、乗合バス事業者 事務局：静岡県バス協会、県地域交通課
オブザーバー	静岡鉄道株式会社、静岡県地球温暖化防止活動推進センター

2

2024実施成果と課題

成果

- ◆無料デー当日のバス利用者は、実施の前週、翌週のいずれと比較しても増加（子どもの利用者は前週、翌週の約4倍）
- ◆バス無料デーに乗った小学生のうち、バスに乗った頻度が少ない（今までに3～5回以下）小学生が44%、1度もバスに乗ったことがない、または1～2回の乗車経験が極めて少ない小学生は15%を占めた
- ◆今度、「バス無料デー」があればバスに乗ってみたいという小学生が全学年で6割以上を占め、無料デーでなくても乗ってみたいという小学生が全学年で約8割を占めた
- ◆バスに乗った保護者等の8割以上が、バス無料デーに満足と回答、満足な理由として「子どもの経験になったから」との回答が最多
- ◆バスに乗らなかった保護者等についても、9割以上が次回は子どもを乗せたいと回答（資料：バス事業者アンケート、小学生、保護者等Webアンケート結果）
- ◆普段マイカー利用が多い小学生及びその保護者が、無料デーにバスを利用する等、バス利用の体験機会を提供することができた
- ◆バス利用の呼びかけや小学生アンケートの実施により、バスへの意識や関心を高めることができた

【県活性化協議会（R7.3.14）有識者意見より】

将来に向けた更なる利用促進にも繋がる取組であり、効果検証しながら続けていくことが必要

3

2024実施成果と課題

課題

◆小学生の約4割が無料デーを「知らなかった」と回答

（回答者がいなかった小学校は更に認知度が低い可能性あり）

◆情報入手経路は、小学生、保護者等とも学校を通じて知った人が大半

◆当日、リーフレットを忘れた人や無料デーを知らない人が多数存在

◆バス運転士が不足している状況については、7割以上の保護者等が認知、小学生の認知度は半数以下

（資料：バス事業者アンケート、小学生、保護者等Webアンケート結果）

◆学校から児童（保護者）

への周知方法の工夫・改善や、学校以外の情報入手経路を強化する必要性

◆無料デーの実施によるバス利用の意識、行動の変化の継続的な測定及び検証

【県活性化協議会（R7.3.14）有識者意見より】

一過性のイベントで終わらせないために、持続可能なスキームの構築の必要性

4

2025バス無料デーの新たな取組

内容

広報強化

- ◆無料デー特設サイトの開設
- ◆周知用掲示物（ポスター等）の作成
- ◆実行委員会構成員による一体的な広報の実施
（一斉プレスリリースの実施、車内広告、子育て支援施設、自治会回覧板等での周知等）
- ◆バスの日と連動した無料デーの告知
- ◆大型商業施設等への広報協力依頼
（例：イオン、ららぽーと、サントムーン、コンビニ各店舗等）

実施体制

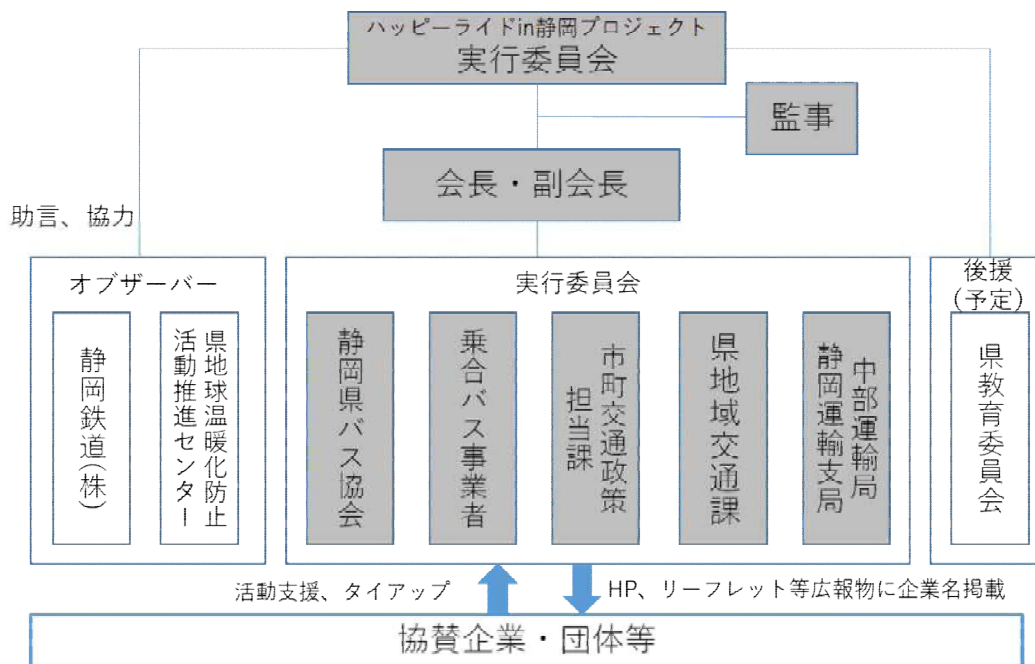
- ◆プロジェクトへの協賛企業・団体（スポンサー）の募集
- ◆教育委員会の後援名義取得

学校との連携強化

- ◆授業での活用を依頼
（教材提供※～リーフレット配布～無料デー利用によるバス乗車実体験～WEBアンケート）
- ◆県校長会理事会での協力依頼
※バスの乗り方やマナーを学べる動画を作成予定

5

2025バス無料デーの実施体制(組織図)



6

2025実施計画

項目	内容
対象者	静岡県内の学校に通う小学生 524校 約173,000名 (国公立・私立小学校、特別支援学校、外国人学校等の全児童) ※R6実績を仮置き
実施日	令和7年12月13日(土)～14日(日) 2日間
利用方法	リーフレットをバス運転士に提示
対象のバス	静岡県内を運行する路線バス・コミュニティバス (土日運休路線、高速道路走行路線等一部対象外の路線・区間あり)
主催	ハッピーライドin静岡プロジェクト実行委員会(令和6年4月24日設置) 構成員: 国、県、市町、(一社)静岡県バス協会、乗合バス事業者 事務局: 静岡県バス協会、県地域交通課
オブザーバー	静岡鉄道株式会社、静岡県地球温暖化防止活動推進センター
協賛企業・団体	<u>(今後、募集)</u>
後援	<u>県教育委員会(今後、名義取得予定)</u>

7

実施計画(案) スケジュール

月日	内容
5月12日	実行委員会（第1回）の開催、実施計画の決定
5月中旬	各学校長あて小学生バス無料デーへの協力依頼を发出 ※4/25県校長会理事会での説明済（県）
5月下旬～	市町地域交通会議等での説明（県）、運賃協議会での承認（市町）
6月～	実施路線の特定、タイアップイベント企画の募集
～8月下旬	周知用広告物の作成配布、特設サイト公開
<u>9月中旬</u>	<u>プレスリリース①（バスに日に合わせた一斉広報）</u>
<u>11月</u>	各学校経由で小学生に無料デーリーフレットを発送 <u>プレスリリース②（直前の一斉広報）</u>
12月13～14日	小学生バス無料デーの実施、タイアップイベントの実施
～2月	利用者アンケート等のとりまとめ（効果検証）、翌年度実施検討

「静岡県小学生バス無料デー」実施結果の公表 ～子どもの利用は前週翌週の約4倍に～

(静岡県交通基盤部地域交通課)

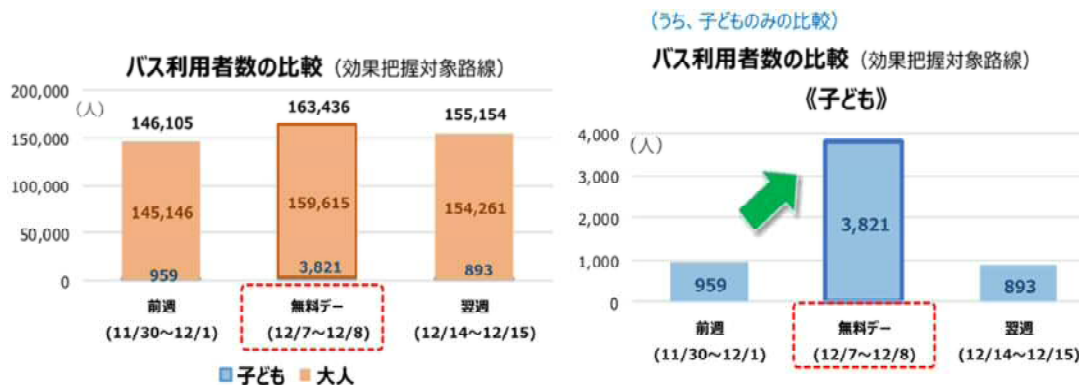
1 概要

- ・令和6年12月7日(土)～8日(日)の2日間、「乗って、残す。」をコンセプトに、県内の学校に通う全ての小学生を対象にバス無料デーを実施した
- ・子どものバス利用者数は、前週、翌週の約4倍となるなど、ふだんバスに乗車しない小学生がバスを利用する機会となった

2 主な実施結果

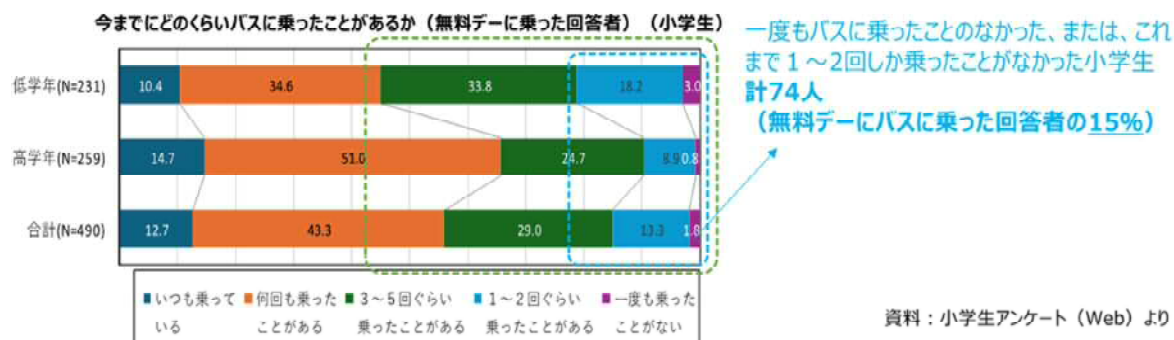
(1) 利用者数

- ・バス事業者からの報告による無料デーのバス利用者は、実施の前週、翌週のいずれと比較しても増加
- ・特に子どもの増加が顕著で、前週、翌週の約4倍



(2) 利用促進効果

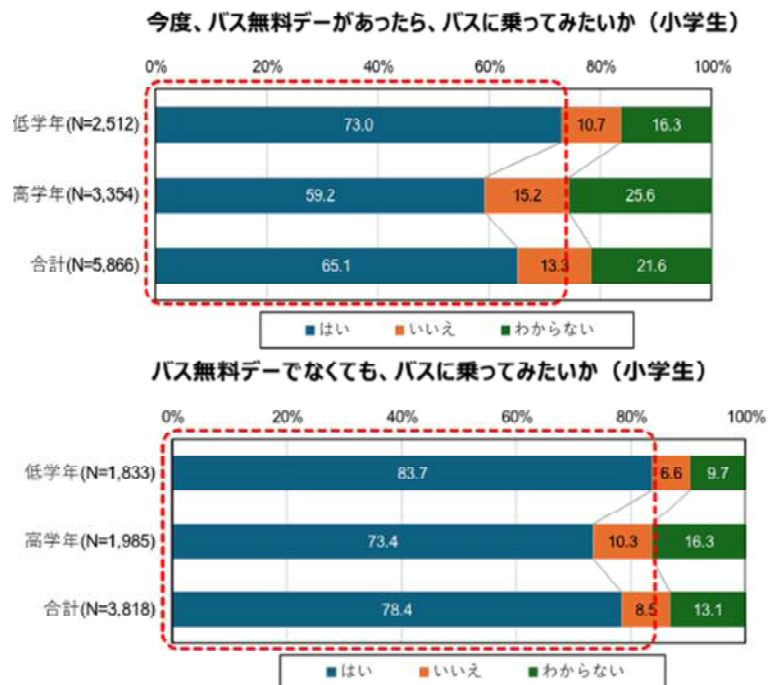
- ・バス無料デーに乗った小学生のうち、バスに乗った頻度が少ない(今までに3～5回以下)小学生が44%を占めた
- ・そのうち、1度もバスに乗ったことがない、または1～2回の乗車経験が極めて少ない小学生は15%だった
- ・以上の結果から、ふだんあまりバスを利用しない小学生に、バス利用を体験する機会を提供できたと考えられる



（３）利用意向・意識の変化

①小学生

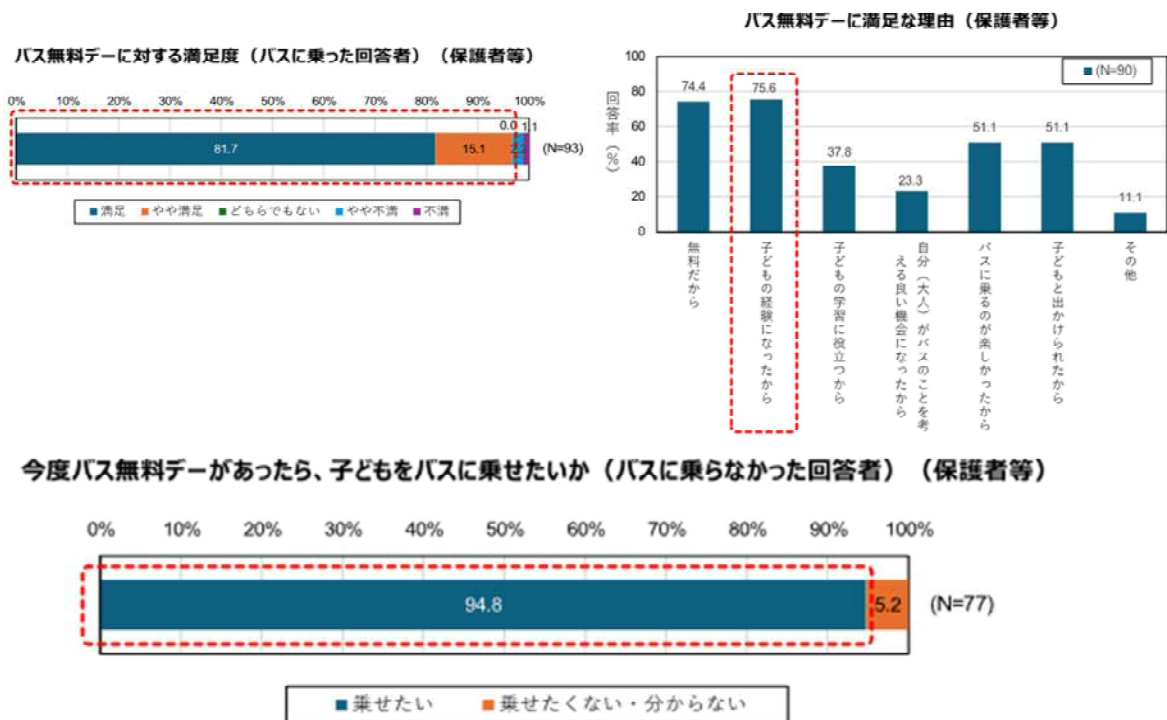
- ・ 今度、「バス無料デー」があればバスに乗ってみたいという小学生が全学年で6割以上を占めた
- ・ このうち、無料デーでなくても乗ってみたいという小学生が全学年で約8割を占めた
- ・ 以上の結果から、事前広報を含めバス無料デーが、小学生のバスに対する関心や利用意識の醸成に寄与したものと考えられる



資料：小学生アンケート（Web）

②保護者等

- ・バス無料デーに（小学生と一緒に）バスに乗った保護者等の8割以上が、バス無料デーに満足と回答
- ・満足な理由として「子どもの経験になったから」との回答が最も多く、保護者もバス無料デーが、子どもがバスの乗車を体験するよい機会になると認識
- ・今回のバス無料デーにはバスに乗らなかった保護者等についても、9割以上が次回は子どもを乗せたいと回答
- ・以上の結果から、保護者もバス無料デーが子どもがバスの乗車を体験するよい機会になると認識していると考えられる



資料：保護者等アンケート（Web）

以上は、調査時点の結果であり、今後の行動変容につながるかどうかは継続した取組及び調査が必要

参考

【イベント概要】

1 実施日

令和6年12月7日（土）～8日（日）

2 対象者

静岡県内の学校に通う小学生（約173,000人）

3 利用方法

運賃を支払う代わりにリーフレットをバス運転士に提示

4 対象路線

静岡県内を運行する路線バス・静岡県内のコミュニティバス

（対象外路線 土日運休路線、高速道路を走行する路線、空港アクセス線など）

5 主催

ハッピーライド in 静岡プロジェクト実行委員会

（構成団体）

国、県、市町、（一社）静岡県バス協会

しずてつジャストライン(株)、遠州鉄道(株)、(株)東海バス、伊豆箱根バス(株)、
富士急静岡バス(株)、富士急シティバス(株)、富士急モビリティ(株)、富士急バス(株)、
秋葉バスサービス(株)、山梨交通(株)、(株)大鉄アドバンス、日本平自動車（株）

6 協力団体

静岡鉄道(株)、県地球温暖化防止活動推進センター、（一社）静岡県自動車会議所
ほか16団体

7 特別協賛

静岡ブルーレヴズ(株)



【PR用ロゴマーク】